

震災に関する住民意識についての考察

近畿大学工学部 正 員 保野健治郎

〃 〃 高井広行

〃 〃 ○ 難波義郎

1. はじめに 地震災害は、地盤の破壊、山崩れ、家屋の倒壊、火災等全ての災害を含んだいわゆる総合災害である。この震災の防止対策や防災計画を考える上で、住民の意識側面からのアプローチも重要であり、無視できないものである。本研究においては、地区住民が日常から地震に対してどのような感じ、また、どのような考え、意見を持っているのかを把握することにより、地区住民の安全かつ快適な生活を確保するための防災環境の改善、また、今後における防災対策の推進のための基礎資料を得ることを目的としている。

本研究は、主として地区住民に対するアンケート調査の結果を基礎資料とし、これに加え、自治会等へのインタビュー調査、各地区の特性をふまえて、地区別に分析し、若干の考察を行う、ためのものである。

2. アンケート調査の概要 広島市内の住宅地区A土地利用を考慮し、54年(7月および10月)6地区(大州、宇品、原戸、天満、中田、舟入)、55年(7月)6地区(白島、観音、皆実、東豊、吉島、国泰寺)の計12地区において、各地区の〇〇世帯を母体アンケート調査を行、た。アンケート用紙は、世帯の代表者に記入してもらい世帯票と小学生以上の全2人の人々に記入してもらい個人票の2種類である。

3. アンケート単体集計結果 世帯票により震災に関する項目について得られたアンケートの単体集計結果を表1に示す。まず、避難場所の認知状況であるが、全地区平均で「知、ている」と答えた割合は41%と、「知らない」(59%)と答えた割合より下回、てあり、過半数以上は、住民の避難場所を知らないこととなる。とくに、60%以上の人々が「知らない」と答えている地区が6地区あり、避難場所に関する情報の貧弱さがうかがわれる。また、避難場所を「知、ている」と答えた人々のその避難場所の安全性の評価は全地区平均で「安全である」と答えた人々が、75%をありぬく人々が良い評価をしている。また、同様に避難場所までの距離に関しての評価は41%の人々が「遠い」と答えてあり、避難場所へ設定に少し問題があるようである。つぎに、震災には関係なく、「火災の危険 不安を感じるか」の質問に対し、「感じる」と答えた世帯の割合が全地区平均で87%と、震災の危険・不安を上回ってあり、火災の危険のほうがより身近に不安を感じているようである。

つぎに、55年調査を行なった地震直後の不安・危険度意識および地震後しばらくしてから不安・危険度意識に關し、表2、表3に示す、地震直後の場合は「家族の安全」と「近頃の不安」に対して

表1 世帯票によるアンケート集計結果 (%)

世帯項目	地区	大州	宇品	原戸	天満	中田	舟入	白島	観音	皆実	東豊	吉島	国泰寺	平均
避難場所・認知状況	知、ている	40	39	43	33	34	40	35	42	42	44	55	41	41
	知、らない	60	61	57	67	66	60	65	58	58	56	45	59	59
避難場所・安全性	安全である	71	82	75	69	72	82	86	83	73	77	76	82	75
	安全でない	29	18	25	31	28	18	14	17	27	23	24	18	25
避難場所までの距離は	遠い	57	35	43	48	38	33	40	42	48	31	36	42	41
	適当	43	65	57	52	62	67	60	58	52	69	64	58	59
敷地内の連絡方法	決、めてある	11	10	9	9	6	13	6	6	7	8	8	8	9
	決、めてない	89	90	91	91	94	87	94	94	93	92	92	92	91
災害についての話し合い	ある	55	54	54	48	48	46	48	55	49	53	48	44	50
	なし	45	46	46	52	52	54	52	45	51	47	52	56	50
自治会での話し合い	ある	13	13	14	17	8	13	6	10	11	6	9	13	11
	なし	87	87	86	83	92	87	94	90	89	94	91	87	89
震災の危険・不安意識	感じる	76	71	68	67	63	72	70	75	70	72	76	67	71
	感じない	24	29	32	33	37	28	30	25	30	28	24	33	29
火災の危険・不安意識	感じる	93	89	81	86	78	89	86	94	90	89	91	87	87
	感じない	7	11	19	14	22	11	14	6	10	11	9	13	13
非常時の肩書	有る	16	17	16	13	16	18	10	12	10	17	19	17	15
	無い	84	83	84	87	84	82	90	88	90	83	81	83	85
消化器の肩書	有る	54	59	59	63	65	65	65	53	61	58	63	62	61
	無い	46	41	41	37	35	35	35	47	39	42	37	38	39
総合防災環境	良い	-	-	-	-	35	29	36	26	17	21	23	29	27
	悪い	-	-	-	-	10	14	18	13	29	19	20	15	11
安全な住民地区	安全	-	-	-	-	-	-	51	30	38	26	33	38	36
	安全でない	-	-	-	-	-	-	10	13	14	14	13	16	10
回収率		78	73	50	69	83	94	94	82	89	85	77	87	80

不安を訴える率が高く、また地震後しばらく経過した場合は、「電気、ガス、水道の停止」という最も身近な事柄についての不安を訴える率が高い。一般に他の項目に関しても過半数以上の人は何らかの不安を述べた。

つぎに、防災に関する総合的評価と考えられる①自宅周辺の震災による総合防災環境意識について、特に古い住居専用地区の省実地区では、「悪い」と評価した人々の割合が世帯票、個人票とも「良い」と評価した割合をかなり上回っている。また②自宅周辺の住居環境意識については世帯票、個人票とも「悪い」と答えた割合が「悪い」と答えた割合をかなり上回り、①防災意識の低い評価に対し、比較的甘い評価となつてゐる。

4 クロス分析結果 主な結果について列挙する。(クロス表は後面の都合上省略する)

- ①震災に対する危険 不安意識は、前述者 비해、鉄骨 鉄筋に住んでゐる世帯の方が危険、不安を感じるに答えた人々が多く、築年数と逆の関係にあるようであるが、一般に、高層住宅に比べ、鉄骨、鉄筋建築が多く、震災に対しては住居家屋より危険 不安を感じる割合が高くなるものと考へられる。
- ②火災の危険 不安を感じるに答えた世帯の割合は、全地区平均で、木造が9%、鉄骨 鉄筋が2%と、木造に住んでゐる世帯がより火災に対する危険 不安を感じており、割合も9割近く殆んど世帯が感じてゐる。
- ③震災の危険、不安の意識は持ち家世帯より賃貸の住宅に住んでゐる世帯が、より強く不安を感じてゐる。
- ④住宅の宅地規模と火災の危険 不安の意識に關し全体的に危険、不安を感じる割合が9割近くを占めてゐるが、100㎡以下の小規模に住んでゐる世帯についてやや、不安を感じる割合が高くなる。
- ⑤災害について考へたことがあるに答えた人々の割合で、若年層(20才未満)は他の年齢層に比べて低くなり、また、若年層と壮年層(20~49才)でかなり深刻に災害について考へてゐるようである。また、性別では女性の方が男性より、災害について意識が高く、86%も人々が災害のことを考へたことがあると答へてゐる。
- ⑥震災の危険 不安を感じるに答えた人々は殆んど(95%)が火災の危険、不安を感じるに答へており、火災の危険 不安を感じないに答えた人々はわずか5%である。震災の危険、不安を感じないに答えた人々の中でも70%が火災の危険、不安を感じてゐる。
- ⑦防災環境は宅地規模が小さいとつて、「悪い」と評価する割合が増加する傾向がある。
- ⑧防災環境は、男性の方がかなり明確に判断を行つてゐると考へられる。「普通」と答えた割合が女性に多い。
- ⑨震災の危険、不安を「感じない」と答えた人々で、防災環境が「良い」と答へる割合が高く、逆に、震災の危険、不安を「感じる」と答えた人々で防災環境を「悪い」と評価する割合が少し高くなる傾向がある。

5. まとめと今後の課題 本稿では主にアンケートの集計結果を検討し、住居意識の概略を把握することができたものと思ふが、現在総合的防災意識と地区特性、個々の意識要因との関係について分析を行つており、今後の機会に発表をしていく予定である。

なお、本研究は文部省科学研究費(昭和54年、55年度)に頂いた研究の1部である。記して感謝の意を表す。

表2 個人票によるアンケート集計結果(地震後:想定)

項目 地区	電気の不安		行動の不安		火災の不安		延焼の不安		家屋の倒壊		危険物の漏洩	
	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない
白鳥	85	3	55	8	68	14	74	11	62	18	42	35
鳥音	84	3	53	8	66	12	75	8	63	15	48	27
菅原	84	3	52	9	64	12	77	4	60	15	52	24
東雲	85	1	50	8	62	11	74	7	63	14	51	25
吉原	83	5	57	8	63	13	77	7	60	17	50	27
西条	86	5	53	10	58	14	76	7	61	16	44	33
全地区平均	85	3	53	9	64	12	75	7	62	16	49	28

表3 個人票によるアンケート集計結果(地震後:5年:想定)

項目 地区	電気の不安		情報提供		マニピュレーション		役所の設置		防災活動		補助活動	
	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない	不安を感じる	不安を感じない
白鳥	88	3	65	11	55	16	59	12	56	11	55	15
鳥音	81	4	61	13	51	17	52	10	52	9	54	9
菅原	82	3	63	12	60	12	59	9	58	9	62	9
東雲	79	4	60	11	52	15	58	10	57	7	58	6
吉原	81	4	65	12	57	14	60	12	58	11	58	12
西条	82	4	70	10	57	14	62	7	73	7	63	8
全地区平均	82	4	63	11	55	15	57	22	57	9	58	10